



「山岳」登攀競技の行われる赤岩滝の岩壁では、審判席などが建設されている

さあ 栃の葉国体です

栃の葉国体秋季大会が、いよいよ今月十二日から十七日までの六日間開かれます。日光では、日光連山を舞台とした「山岳」と体育館を会場とした「剣道」の二種目が行われますが、すでに会場の準備や運営の態勢も着々と進められ、全国からの選手・役員を迎えるばかりとなりました。

今回の国体では、日光会場に常陸宮殿下がご来場になり、十五日午後には、剣道会場の体育館で、「剣道競技」を、また、十六日朝には、安良沢小学校で、「山岳」の少年男女、踏査出発を、それぞれご覧になり、選手たちを励まされることになっています。

* * *

国体期間中来見するのは「山岳」が、監督九十二人、選手二百七十六人、競技役員二百四十二人、

補助員二十人、支援隊八十三人の計七百十三人。「剣道」は、監督九十四人、選手四百七十人、競技役員百二人、補助員六十八人で、計七百三十四人。二種目で、千四百四十七人が参加します。このほか、各地から視察などにも多勢みえ、各会場では、連日ハイレベルの試合が展開されるものと期待されます。

日光の国体は良かったと、いつまでも語りぐさにされるよう、市民全員、真心でお客さまを迎えましょう。

* * *

今回の国体に、日光市から「山岳」成年男子に、清滝四丁目の毛塚勇さん、「ホッケー」成年男子に、西小来川の田中孝一さんの二人が出場します。両君の活躍が期待されます。

国体の競技は、だれでも自由に

第十六回 全国身体障害者スポーツ大会

第十六回全国身体障害者スポーツ大会が十月二十五日、二十六日の二日間、各都道府県、指定都市からおよそ二千五百人の選手・役員を迎えて、県総合運動公園と県体育館で開催されます。

全国身体障害者スポーツ大会は、全国の身体障害者の選手が一同に会し、お互いがスポーツを通じて体力の維持と機能回復に努力してきた成果を発揮しあうもので、一般のスポーツのように、記録を競い合うのが目的ではなく、身体障害者が自らの障害を克服し、希望と勇気をもってたくましく生きていく能力を育てるとともに、身体障害者に対する社会の正しい理解を深めることを目的としています。

この大会は、昭和四十年の岐阜大会を第一回とし、毎年国体の秋季大会終了後に国体の開催県で開かれるようになりました。

観戦することができません。全国的な規模の、高水準な競技を、直接観戦できる絶好の機会ですので、ぜひご覧ください。

「山岳と剣道の競技日程は、8・9ページに掲載してあります」

表紙のことは

表紙シリーズ

日光むかしがたり

赤岩滝

栃の葉国体「山岳」の登攀競技が行われる「赤岩滝」は、中禅寺湖西方の、西の湖近くから林道を進み、さらに山路をたどると、突然その雄大な全容を見せてくれる。数多い日光の名瀑の中で、秘瀑の王者といえるだろう。大きく、美しい滝なのだが、深山にあるため「日光山志」にもその名は見当たらない。明治三十五年発行の「日光名所図会」には、次のように紹介されている。「黒松山の西北にあたる深山中にあり、高さ凡そ二十丈許り、中間の岩壁に飛下し、下層数派に分れ、泡沫飛散するの状尤も壯観なり」と、尚ほこの辺二三の滝あり、水幅狭くして名もなければ記するに由なし。滝の下部中央の水中に、巨大な不動明王像があるという。じつと見てみると、水が風に飛んだ時、その姿が現われる。自然にできたものか、昔たれかが刻んだものかはわからない。この秘瀑の右側の岩壁で、この秋、山男たちが技を競う。